

読み方につけプリント1

問題
.. つづきを考えよう

ここは、『あいいうえおいきものランド』。

どんないきものがあるって？

それでは、
しょうかいしよう。

まずは、あり。さとうがだいすきな、小さな力もち。

つづいて、いるか。かしこい海のいきもの。

さあ、つぎは、うさぎ。にんじんだいすき。

まだまだいるよ、つぎは、えぞしか。北海道のしか。

つぎは、おじさん。にんげんだって、いきものさ。

ほかにたくさんいるんだ。

あひるに、いんこに、うぐいすに、えいにおに。

すごいでしょ。

レストランにもメニューがいっぱい。

あめに、
いくらに、
うまいぼうに、
えだまめに、
おにぎり。

あれ？きみも、このいきものランドに入りたいって？

名前はなんていうの？

か
・
・
・
かまきり？

うーん・・・だめかな。きみは入れない。

なぜなら、

[illegible]

読み方につけプリント2

問題 .. バイキンマンはどうなる？

おれさまバイキンマン。

いつもアンパンマンにまけている。

どうしてかでないのか・・・。

よし、れいせいと考えてみよう。

まず、おれさまはいつも、あと少しのところまではいくんだ。

アンパンマンの顔をぬらす。

これで、アンパンマンは力が出なくなるらしい。

ここからだ。ここからがよくない。

たいてい、バタコさんという人間が、

アンパンマンの顔をなげてこうかんする。

そうか、顔だ。顔なのか！

アンパンマンの顔がいけないのか。

アンパンマンの顔はたしか、パンでできている。

ようし、このよの中のパンをぜんぶ食べてやるぞ！

それも、1日でぜんぶだ！

バイキンマンはその後、

[illegible]

いたい！いたいってば！
まったく、人間は。

先生が、

人間は、わたしをさがしだす。

紙にこすりつけるんだ。

少しずつ小さくなっていくけど、

ちよつといたい時もあるけど、

そう、わたしは

[illegible]

読み方につけプリント5

わしの名前はトレンディーはかせ。

わしはとんでもないものを発明してしまったぞい。

それが、これ。スーパーランドセルじゃ。

このランドセル、なんと中の一番下のところがすべて、テレビになっているのじゃ。これで、ランドセルから教科書やノートを出すふりをして、こっそりテレビがみれる。すごいじゃろ。

さらに、このランドセル、中にクーラーをつけているから、れいぞうこにもなるのじゃ。

これであつい日なんか、中からひえたノートが取りだせるってわけじゃ。すごいじゃろ。

さらにランドセル自体がけしゴムでできておる。

これで万が一けしゴムをわすれても、ランドセルをもつてこすれば字をけせるし、先生にもおこられなくてするのじゃ。

どうじゃ、すごいじゃろ？

まあ、重さは20キロとかなり重めじゃが、ひもで引っばって
いけばいけはなんとかなるじやろ。

どうじゃ？ほしいか？

(このランドセル
ほしい
いらない)

理由

[illegible]

読み方につけプリント6

トレンディーはかせ

わしの名前はトレンディーはかせ。

この前のランドセルをいらないと言われて3日間。わしはくやしくて、こんどこそ本当にいるものを発明することにしたのじゃ。そしてついにできたのが、このえんぴつけずりマシーン。

このマシン、すごいのだじゃ。

なんと、えんぴつをけずりながら、ひげもそれるのじゃ。すごいじゃろ？

さらに、にんじんやたまねぎなどをつつこめば、みじんぎりに
もできるのじゃ。すごいじやろ？

きわめつけはこれじゃ！このマシーン、けしゴムできているのじゃ。これで、えんぴつでまちがえたところをけせ、えんぴつをけずれる。あん心して書きほうだいじゃないか。

どうじゃ、
こんどこそ、
ほしいじゃろ？

(このマシーンほしい
いらない)

理由

[illegible]

読み方につけプリント7

トレンディーはかせ

わしの名前はトレンディーはかせ。

みんなに「いけない」「いけない」と言われ続けてきた。

どうやら、きかいにけしゴムがついているのがダメだったようじゃ。

そこで、今回は思い切って、けしゴムを作ることにしたのじゃ。
これならだれももんくが言えまい。

このけしゴムのすごいところは3つあるのじゃ。

1つ目が、このけしゴム、まわりをすべてベトベトのボンドがぬられているのじゃ。これで、ベトベトするから、つくえの上から落ちなくてすむのじゃ。

2つ目が、このけしゴム、えんぴつつけずりがついているのじゃ。これで、字をけしながら、えんぴつもけずれるのじゃ。

さいごにこのけしゴム、食べれるのじゃ。これで、じゅぎょう中におながすいても、だいじょうぶじゃ！

(このけしゴム
ほしい
いらない)

理由

[illegible]

読み方につけプリント8

子ども校長

ぼくは、子ども校長。

ひよんなことから、8さいだけど、この学校の校長先生になることになった。

ぼくは、前からこの学校を子どもがよろこぶような学校にしたいと考えていた。だから、校長になった今、ぼくのやりたいようにこの学校をかえてみようと思う。

まずは、水道から出てくる水をすべて、ジュースにしてみようと思う。

このじゃぐちからはポカリスエット。

このじゃぐちからは、オレンジジュース。

このじゃぐちからは、ファンタメロン。

すべてのじゃぐちから、おいしいジュースが出るようにした。

よそうどおり、子どもたちはおおよろこび。

休み時間は水道にたくさんのができた。

だが、ひげきはそうじの時間におきた。

(つづきを書こう)

[illegible]

読み方につけプリント9

子ども校長

ぼくは、子ども校長。

前回は、ジュースがでるじゃぐちのせいで、学校中がベトベトになってしまった。

よく考えなくちゃいけないんだと思ったよ。

そこで、今回は学校のルールをかえてみることにしたんだ。

それがこの休み時間だらけさくせん。

1時間目が終わったなら、1時間、休み時間。

2時間目がおわったら、1時間、休み時間。

3時間目がおわったら、1時間、休み時間。

4時間目がおわって、きゅうしよくを2時間。

きゆうしよくをたべたら2時間、昼休み。

5時間目がおわったら、1時間で帰りの会。

すごいでしょ。じゅぎょうもちゃんと45分やるから、頭もよくなるよ？うん、これなら楽しそう。かんぺきだ。

ひげきは、学校から出るときにおきた。

(つづきを書こう)

[illegible]

読み方につけプリント10

本当のせいぎとは

わたしは、せいぎのヒーロー、やりすぎマン。

いつも、やりすぎてしまう、かなしいヒーローさ。

あ！あそこに、重たそうに物をもっているおばあさんが、しんごうきの前でこまっている。

きつと道路をわたれないでこまっているんだ。

よし！わたしにまかせておけ。
とりや！

まずは、そうだ。しんごうきがよくない！

しんごうきをひっこぬいてしまえ！とりや！

むむ？まだおばあさんはこまっている。

そうか、にもつが重くてもてないのか。

ならば、にもつをかるくしようじゃないか。

なにになに、にもつの中身はどらやきか。

よし、わたしが半分食べてあげよう。

むしやむしや。うんうん、うまいうまい。

あれれ？おばあさんはかなしい顔をしているぞ。

（あなたがヒーローなら、どうする？）

[illegible]

読み方につけプリント12

今年、初めての世界大会。モリンピックがおこなわれた。

モリンピックは、世界ビリを決める大会だ。

負けつつけることだ。

自分だけまけようと思えばかんたんなのであるが、あいてもまけようとしているからだ。

たとえば、やきゅう。ピッチャーは、わざとゆつくりとしたたまをなげるし、バッターはわざとからぶりをする。

ボクシングは、はじまったら、わざとにげだすし、りくじょうはわざとゆっくり走る。

見ているかんきやくはつまらなそうだ。

おそらく、こんな大会はもう2度とおこなわれないだろう。そう思っていた矢先、とんでもなくもりあがりを見せるスポーツがあらわれた。

それはサッカーだ。

なぜなら、みんな負けようと、

[illegible]

たくやは、じゅぎょうちゅう、たいくつだった。

きらいな算数のじゅぎょう、ずっと外をぼんやりとながめていた。くもがながれていくけしきのはし、きゅうにまぶしさをかんじた。太ようのせいかと思ったが、どうやら光の正体はたくやの教科書にあった。

教科書が光っている。12ページと、13ページのすきまからきようれつな光があふれている。

ページに手をふれると、

（え、なんだこのページ、シールみたいにめくれるぞ）

たくやは、ドキドキしながら教科書の12ページをシールみたいにゆつくりとめくってみた。光はだんだん強くなっていく。

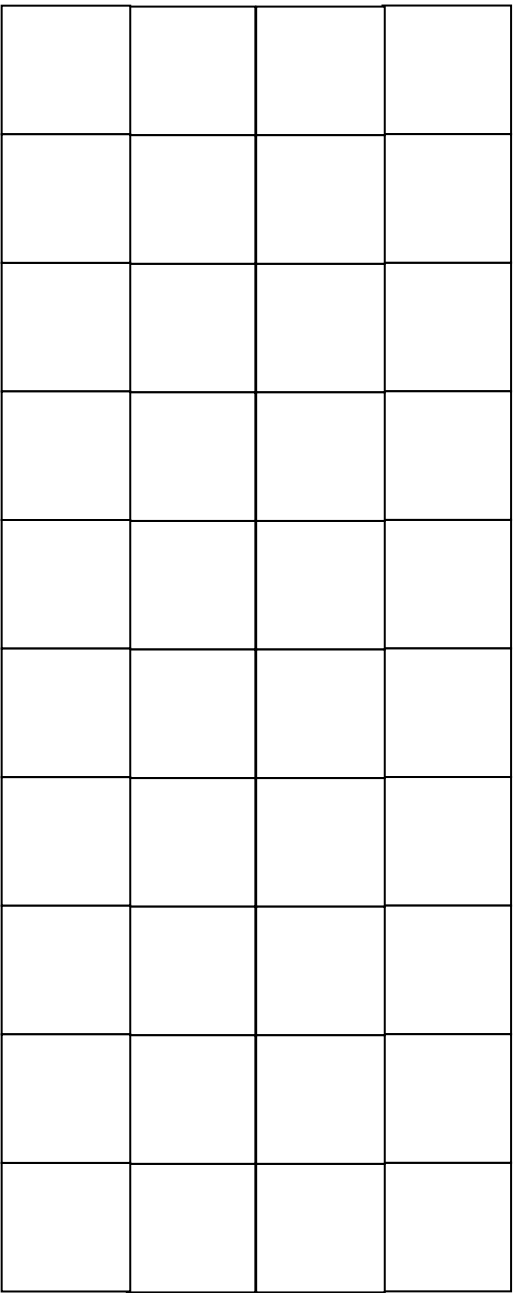
かがやきが太ようより強くなった時、たくやの体はふつとうきだし、教科書にすいこまれていった。

「うわああああああ」

声を出したが、まわりの子どもたち、先生は、たくやのことに気がつかないままじゅぎょうを続けている。

たくやの体が完全に教科書の中に入ってしまった時、

たくやのいしきは光の中に消えるように真っ白になった。



あやしいピエロは大きな声でさけびだした。

「おめでとう！君たち！君たちはえらばれたのだよ！」
たくやは聞きかえす。

「えらばれたって、何にさ？」

にやつとわらって、ピエロは答える。

「このマナバーン王国にさ。ここはね、学ばなくていい国。いや。
学んじゃだめな国なのさ。そう、一日中、あそびほうだい！ゲー
ムし放題！ゆうえんちであそびほうだい！たべほうだい！」

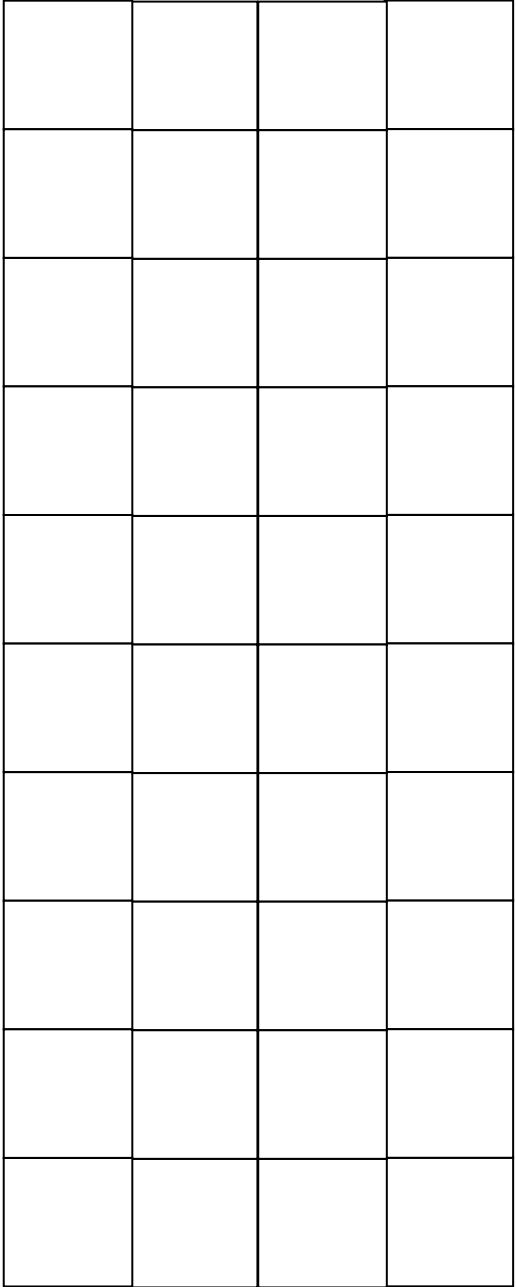
そこでまわりを見ると、

遊園地に、食べ物屋さん、ゲーム屋さん、おもちゃ屋さん
ゆめのような国が広がっていた。

「すごい！やっつほう！」

子どもたちは走り出して、遊園地のほうへきえていった。

その様子をピエロがぶきみなわらいをしながらみているのをた
くやは横目でみたが、ゆうえんちが楽しそうだったので、行って
みることにした。



読み方につけプリント21

おっちょこちょいなねこまる、かれには毎日1回おそろしい時間があった。それはさんぽの時間。

5 かいのわが家から、いやがるねこまるをかかえて、となりの
こうえんまでいく。そこでねこまるを放す。

すると、ねこまるはものすごいいきおいで、走っていき、5かいのわが家のドアの前までもうダッシュ。ドアがあくと、いきおいよく、中へ入っていく。これを3回くらいくりかえすのが、松久家のさんぽである。

その日も、いつものようにさんぽをさせようと、こうえんまで行き、そこでねこまるを放した。

ねこまるはすばやく走り出し、かいだんをのぼっていく。少年松久もおいかける。

しかしこの日、ねこまるは5かいにいなかった。
もう中に入ったのかな？と思ったが、家の中にもいない。

かいだんをのぼっていったねこまるをたしかに見た。いつもなら5かいでまっているのに。今日はいいない。

い
つ
た
い
・
・
・
ね
こ
ま
る
は
・
・
・

[illegible]

読み方みにつけプリント24

まつピーの身の守り方

まつピーは身長が4センチとひじょうに小さな小人です。

まつピーにはたくさんのできがいます。

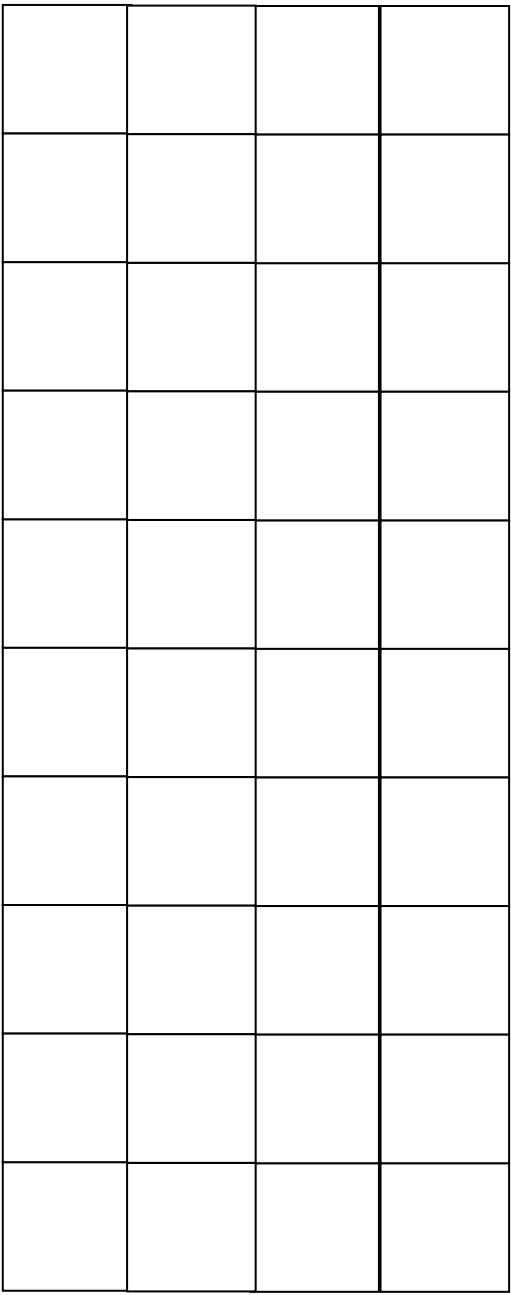
かえるや、キツネや、ワシなどにおそわれることもあります。

では、そんなまつピーはてきからどのようにして身を守っているのでしょうか。

第一に、まつピーはダンボールの中にかくれて生活しています。ダンボールの中にはあまりてきがないからです。

第二に、まつピーは花火をします。火におどろいたてきがにげだしたり、けむりが出るので、てきから見えにくくなるからです。

第三に、



これだけではなく、まつピーは、水温40度のおふろに、長い時間入っていることができるし、真水のプールでも、海水でもお泳ぎができます。なんと、室温100度ちかくのサウナに5分いても平気なのだそうです。めだかよりすごいですね。

ふだん、おゆうぎをしているように見えるまつピーも、様々なほうほうで身を守っているのですね。

それは、おれの心を見ている人間と入れかえることができることだ。

そうだな、たとえばあのおいしそうにクレープを食べている女の子がいるだろう。その子にむかってゆびをさして、

とさげべば、あらふしぎ、おれはその子になっているんだ。

おいしくクレープをぜんぶ食べたなら、ふたたび、

とおれの体をゆびさしてさけば元にもどれる。

おれはこのふしぎな力で今までとんでもないことをしてきた。

たんになの吉田先生は、いつものように算数のじゅぎょうをはじめた。おれは、算数がきらいだ。だから、吉田先生にむかってゆびをさして、

とさけんだ。

[illegible]

読み方につけプリント26

くやどかり人間ピンチのまきく

おれはやどかり人間。

「やどかり」

とさげべば、みている相手といれかわることができる。

いれかわった後はやりたいうだいたずらをして、自分にゆびさして

「やどかり！」

たとえば元にもどればいいんだ。おれは、むてきだ。

だが、おれはこの力の欠点（けってん）を身を持って知ることになる。

それは、テレビで野球の試合をみていた時のことであつた。

おれのおうえんしているチームのバッターがあまりにもうてない。げんいんはピッチャーが強すぎるからだ。

よし、おれの力であのピッチャーをおこらしてやる！

おれは、テレビのバッターにむかって

「やどかり！」

とさけび、バッターになると、ピッチャーにむかつて、あっかんべーをした後におしりぺんぺんをしてやった。

あんのじょう、ピッチャーはカンカンにおこつて、こっちへむかつてくる。ちよつと、やりすぎたか。よし、もとにもどらう。

「やどかり！」

[illegible]

読み方みにつけプリント27

くトークワールドく

全ての生き物が話すことができた。あなたはステキな世の中になると思いますか。

「ごしゅじん、すきにゃん。」

「もっとなでてくれわん。」

かっている犬やネコと話せたり、木に止まっていることりと話せたり、なんだかステキなような気がします。

しかし、わたしはいいことだけではないと思います。

もしも、全ての生き物が話せたら・・・

(ペットショップ)

「ここから出せにゃー！」

「せまいわんー！」

「えさまずいわんわん！」

「ガラスたたくんじゃないにゃー！」

(つり)

「いたたたた。」

「はりをはずしてー！」

「海にもどしてー！」

(虫とり) ※虫たちの声をよそうしてみよう

なんて声が聞こえてくるかもしれません。

読み方みにつけプリント29

575物語

おばあさん

いつものように

あさごはん

おじいさん

ごはんがまずいと

もんくいう

おばあさん

そんならくうなと

さじなげた

おじいさん

さじをうけとめ

やるのかと

おばあさん

そんなら空手

やろうかと

おじいさん

空手をやって

--

ぼくは、ドラたろう。みらいから来た犬がたロボツトさ。

ぼくには使命がある。

こののび太という少年、何かと

とさけんでくる。ぼくは決意した。(このままではこの少年はだめになる。ぜったいに道具ださないぞ)

「ドラたろーう。ジャイアンにいじめられたよー」

「ほう、強くなりたいと？」

「ほう、いいだろう。ほらよ。」

「空手どうぎ」

「いや。ならない。」

「いや、かてる。」

[illegible]

ホラーものがたり・・・？

それは、遠足のことであった。

ぼくは、おべんとうが楽しみでしかたがなかった。

しかし、ぼくは、そのおべんとうで、おそろしい思いをするのであった・・・。

「さあ、おべんとうの時間です。」

と、先生が言うクラスの子どもたちはかんせいをあげた。

ぼくもよろこんで、おべんとうのふたをドキドキしながらあける。すると、

「あれ？ごはんの上につけていたのりが・・・ない！」

朝、お母さんが作っている時には、ポケモンのキャラクターをしたのりが、ごはんの上につけていたのをたしかにみた。

のりがきえたごはんの上にはうめぼしが1つだけだ。ぼくはこわくなって、おべんとうのふたをとじた。

（まさかね。）

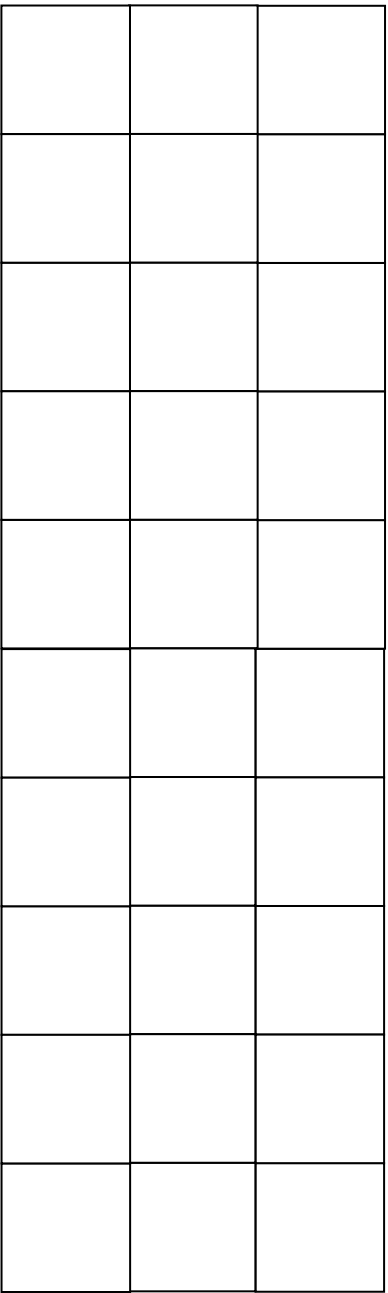
もういちどゆうきを出して、おべんとうのふたをあけた。

「ええ！うめぼしがない！」

今度はうめぼしが消えていたのだ。

のりとめぼしが消えた・・・？

いったい・・・どこに・・・こわくなって、ふたをみると



読み方につけプリント33

頭のいい、か

おれはか。虫のかだ。

食べ物
は人間の
ち。

人間はおれたちをきらうが、おれたちだって、すきでちを飲んでるわけじゃない。生きるためだ。

おれのなかまたちは、
 どんどん人間にたおされてしまった。

ある日、おれは気づいてしまった。

そう、おれたちは音を出していることに。

「ふうん」 「ふん」

この音がいけないことに気づいた。

音を出しているのは、この羽だ。

おれは、二度とばないことを決意した。

さあ、おなががすいてきたぞ。

おや、人間だ。

さあ、あのうでにむかつて行くぞ！

おれは

[illegible]

読み方につけプリント36

りそうの人間になろう

--

野原の松の林のかげのふつうの家の中にいて

東にテストでこまっている子がいれば

行って

西につかれた先生がいれば

行って

南にえんぴつのしんがおれておちこんでいる友がいれば

行って

北にボクシングをしている人がいたら

あつい夏はうちわであおぎ

さむい冬にはストーブがまん

みんなからばかにされて

ほめられもしない

そういうものに

わたしはなりたい

読み方につけプリント41

もぐらたたきのもぐちゃん3

おれはもぐらたたきのもぐちゃん。人間にたたかれつづけてきたおれたちだが、ついに、3年生のアイデアでいたいおもいをしなくてもすむようになった。毎日、楽しくくらせるようになったおれたちだが、一つ大きな問題がおきた。

それが、あの方たちだ。おれたちの前にさいきんひっこしてきたんだ。

するどいキバ、するどいひとみ。

そう、ワニワニパニックのワニのみなさんだ。

ハンマーでたたくこと、あなの中にひっこむこと、どこからどこまでもおれたちと同じことをする。

たたくと「イテッ」とかわいい声を出すから、人間たちに大人気だ。おかげでおれたちのもぐらたたきはこのありさま。人がぜんぜんこなくなった。

ワニのみなさんにはまけたくない。

どうやら人間はかわいいものが好きなようだ。

そこでおれたちは、ねこさんや犬さん、ハムスターさんなど、世界中のかわいい動物にきてもらい、あなから顔を出してもらうことにした。

これをやっている人間はみなこう言った、

「これ、

じゃない。」

読み方につけプリント42

まほうのサイコロ

ある日、みちばたにサイコロが落ちていた。

落し物かと思ってひろってみると、サイコロが光っていることに気づいた。

なんだこれ？その時はそのくらいにしか思わなかった。

家に帰って、つくえの上でそれをふってみた。

「1」の目が出た。

すると、つくえの上に、「イチゴ」がポンッと出てきた。

食べてみるとあまくておいしかった。

つづけて、サイコロをふってみると

「4」の目が出た。

すると、つくえの上に、「しいたけ」がポンッと出てきた。

食べてみると、しいたけのあじがした。

つづけて、サイコロをふってみると

「3」の目が出た。

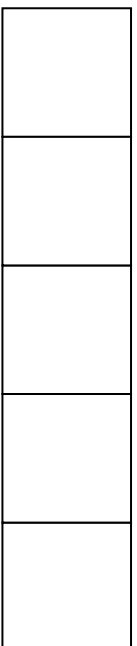
すると、つくえの上に、「さんま」がポンッと出てきた。

食べてみると、しゅんのあじがした。

つづけて、さいころをふってみると、

「2」の目が出た。

すると、つくえの上に



がポンッと出てきた。食べてみると、

読み方につけプリント43

カウンント物語

わたしは、のりこ。ちょっとふしぎなのうりようをもっている
小学3年生の女の子。

たいしたのうりよくじゃないけれど、とんでもないのうりよく
でもあるの。

それは、人の回数がみれるのうりよく。わたしが気になった。
回数がその人の頭の上にポンっと表示されるの。

たとえば、あ。あの人を見て、

（あの人、今までにピザを何回食べたのかしら？）

と思うと、あの人頭の頭にほら、

「105」という数字が出るの。あの方はピザを生まれてから今
まで105回食べたことになるわ。

あ、そのとなりの人は・・・そうね、

（あの人、今まで何歩歩いたのかしら）

「200045554」

ええ！すごい数！そんなに歩いたのね。

とまあ、ほとんどは面白い数が知れるんだけど、

それでもない時もあるの。それは、

あの人、

って私が気になった数を思うとき。知りたくなかった数が
出てきてしまうこと。

読み方につけプリント44

ピーマン対バナナ

今、ピーマンとバナナが話し合いでどちらがすごいかを決めることにしたようです。

ピーマン

「いやいやいや、バナナくん、さいきん君は子どもに人気のようだね。でも、かんちがいしないように。見たまえ、ぼくのこの体！みどりムキムキだろ。君にはこのみどりはまねできないだろう。そう、ぼくにはえいようがあるんだよ。わかったかね。」

バナナ

ピーマン

「むむ！たしかにわたしは子どもには人気がないよ。それはみとめる。でも、ぼくを食べ終わったあの子たちの顔をみてごらん。ほら、すぐくまんぞくそうだろ。こうやってあの子たちは大人になっっていくのさ。さらに、ぼくにはたくさんの料理に使われる、君ははたしてどんな料理につかわれるのかな？」

バナナ

ピーマン

「け、けっこうあるね。」

読み方につけプリント45

きかいがしごとをうばう？

今、人間たちのしごとをきかいがうばってきている。

たとえば、レジ。

昔はそろばんをもった人がカチカチと計算してお金をはらってもらっていたが、今のレジには人がいない。

自分で商品をきかいにピッピッと、あててお金もスマホでピッとはらっている。

このままだと人間の生活をすべてきかいがうばってしまう。さあ、そんな世界のきよくたんな物語をしようかいしよう。

ある日、たろう君はめざましロボットにほっぺをつねられて目がさめた。おきあがろうとすると、上からクレーンがおりてきて、たろう君をつかまえて、おきあがらせる。学校へ行こうとランドセルをせおうと、ランドセルから火がふきだし、ロケットとなつて、いっしゅんで学校へとうちやく。

学校へつくと、ロボット先生たちが、一人に1台ついていてねに勉強を心のない声でせつめいしてくれる。ともだちロボットもたくさんあり、おにごっこなどをしてくれるが、話す言葉はいつも同じ。ごはんも、つくえについているメニューボタンをおすとすきなごはんをすきなだけ食べることができる。

さて、こんなせかい、すてきだろうか？（はい・いいえ）

読み方につけプリント46

バイキング店にて

いったいなんだこのバイキング店は。

「食べ放題300円」というはかくのねだんがかんばんに書いてあったので、ふらっと入ってみた。300円で食べ放題であったら、ものすごいおとくではないか。

店内に入ると、何かいやなよかんがした。

お客さんが一人もない。

気を取り直して、せきにつく。するとすぐに、店員さんがやってきて、テーブルに何かを置いた。

見ると、小さなつまようじが1本、十円玉くらいのものすごく小さなお皿が1まいおかれた。

すると、店員さんがいきなり

「スタート！」

とさけんで、ストップウォッチをおした。

「え？食べ放題がスタートってこと？え？もしかして、このつまようじで食べるの？え？何分食べ放題なの？」

「120秒です。のこり110秒です。」

わたしは走った。どこにごはんがあるのだ、あ、あった。カレーだ。何なに、1回につき、お米20つぶ、ルーは小さじ1はいままで、だと。もういい、ちがうやつ、あ、ケーキコーナーがあったぞ、おお、おいしそう！何なに・・・何だと！このケーキはおもちゃなので食べられませんだと。次だ次、お、おすしコーナーだ、何なに・・・何だと！

読み方につけプリント47

かんちがいゆうしゃ

おれはゆうしゃ、世界の平和を守るために生まれてきた。
今、おれはチラシを見ている。チラシにはこう書いてあったか
らだ。

「さいこうなけん、プレゼント。」

さいこうなけんだと。これさえあれば、強いてきにかてるでは
ないか。行くしかない。

おれはスーパーとよばれるたてものに入っていた。

5分後、おれはけんを手に使っていた。

お米けん・・・なんだこのけんは、ただの紙ではないか。

チラシをしつかりと見ることにした。

するとチラシにはこう書いてあった。

「強いかぶと」

なに、これさえかぶれば、てきのこうげきなど、きかなくなる
ではないか。こんどこそ。

おれはホームセンターとよばれるたてものに入っていた。

5分後、

こんな生き物など、かぶれるわけがないではないか！

けっかんまほうが使えたら

もしも、まほうが使えたら。なんて考えたことはないか。

手から火が出たり、空をとべたり、ものをかえたり。

そんなステキなまほうが使えたら・・・

ある日、あやしいまじよがあなたをたずねてきた。

まじよは言った。

「火のまほう？空とぶまほう？ものをかえるまほう？

どれでも、すきなまほうを1つ使えるようにしてあげるよ。」

まじよは続けてこう言った。

「でも、火のまほうは一度手から火が出ると、ずっと手から火が出続けてしまうよ。」

「さらに、空とぶまほうは、一度とぶと、二度と地面に足をつけることはできなくなるよ。」

「ものをかえるまほうは、かえてみないと何になるかわからないまほうだよ。」

あなたはこう言った。

まじよは、

「それがいいね。」

と言ってさっさといった。

読み方につけプリント49
きびしすぎるどろぼうたち

あるところに、どろぼう三人がいました。

このどろぼう、三人ともとってもルールにきびしいどろぼうでした。

かぎのかかっていないドアを見つけ、入ろうとすると一人が、「だめでしょ！人のうちに入る時はチャイムをならさないと！」と言って、

「ピンポーン。」

とチャイムをならします。

たまたま、人がいなくて中に入れましたが、一人がとつぜん「だめでしょ！くつをぬいで、ていねいにならなきゃ！」

と言ったので、くつをぬいで、ていねいにならべます。

さあ、これでやっとなすむことができそうです。

リビングのつくえの上に、不用心なことにおさいふがおいであるではありませんか。

一人がとろうとすると、

「だめでしょ！」

けっきょく、どろぼうたちは、何もとらずに帰りましたとき。
というか、この三人、本当に

こわがりどろぼう

あるところに三人のどろぼうがいた。

このどろぼう、どろぼうなのだが、とってもこわがりであった。
ある日、かぎがかかっていない家の中に入ると、とうぜん、中は真っ暗であり、三人とも。

「きゃー！まっくらよー！おぼけが出そうだわー！」
とパニックになる。

あまりにもこわかったので、明かりをつけると、

「きゃー！明かりをつけたら、家の中に入ったことがばれるわー！消して消して！」

とこれまたパニック。

しょうがなく消すと、

「きゃー真っ暗よ！」

となったので、しかたなく三人でかたまつてすわることにした。
ちなみにまだ三人はげんかんだ。

三人がげんかんでおびえていると、

「ピンポーン！」

とチャイムがなった。

「きゃー！チャイムよ！入ってくるわ！どこかにかくれましよう！」

と三人とも近くにあったたなに入ってかくれた。

たなのすきまからのぞいてみると、

なんと入ってきたのは、みるからにどろぼうのかっこうをした三人であった。入ってきた三人はけっきよく

本当のどろぼう

おれはどろぼう。しょうしんしょうめい、本当のどろぼうさ。
おれは、今まで一度もしっぱいをしたことがない。
ねらったえものはのがさないのさ。

さあ、今日は何をぬすもうかな。

しつかりと調べた上で、かぎのかかっていない家をえらんで中に入った。

この家の主は、今日はぜったいに帰ってこない
しょうりをかくしんしたおれは、思わずほほえむ。

そこまではよかった。

だが、おれがリビングに入った時、いきなりげんかんがあき

「きゃー！」

というさけびごえがしたかと思えば、いきなり家の電気がつき、
「きゃー！」
というさけびごえがまたするではないか。

あわててかくれると、今度は

「ピンポン」

とチャイムの音がなったかと思ったら、
さけんでいた三人はどこかへかくれるし、
入ってきた三人は、げんかんでくつをていねいにぬぎだす。
なんだ、この六人は。

さすがにこれではぬすめない、

おれは、けっきよく

読み方につけプリント52

トレンディーはかせの発明

またせたな！トレンディーじゃ。

今までのすまなかった。

正直、どうかしてたわい。あんな使えない発明品など、いらな
いわ。

今度こそ、役に立つ最強のマシーンを作らなければみんなの信
用をうしなってしまう。わしはがんばったのじゃ。

そして、ついにできたのがこれじゃ。

最強目ざましどけい。「おきなきやタイヘーン3号」じゃ。

この目覚まし時計は、5だんかいで君をぜったいにおこしてく
れるようになっていいるのじゃ。

1だんかい目は「おきろ！おきろ！」と君の耳元でやさしくわ
しの声でささやくのじゃ。それでおきなかったら

2だんかい目で、「おきんかい！おきんかい！」と君の耳元でわ
しの声でさけぶのじゃ。それでもおきなかったら

3だんかい目で、時計から手が出てきて、君のことをペシペシ
たたいておこすのじゃ。それでもおきなかったら

4だんかい目で、時計から水でつぼうが出てきて、君のかみの
けをびしょびしょにぬらすのじゃ。これならねぐせも直るぞい。

それでも・・・おきなかったら、

5だんかい目で

今日もたくさん人間に使ってもらった。

わたしは、消しゴム。人間にたくさんつかってもらった。ものは使われたら、使われた分だけ、黒くなる。

そんなよごれを私たちは、「くんしよう」とよんでいた。

くんしようができる、ものはだれしもじまんした。

「おれの黒さ、すごいだろう」と。

わたしのごしゅじんはとってもきれいずきであった。

だからこそ、ノートのよごれをみつけては、わたしを使ってくれたのだ。

わたしは今、くんしょうだらけ。

そんなわたしを、ごしゅじんが今、じっと見つめている。

きつと、くんしょうだらけの私をほこりに思っているのだろう。

でも、しゅじんは、わたしをまるでほこりのように、そのへんになげすてた。

すてられたことよりも、その時のごしゅじんの顔が今でもわすれられない。

かなしくてなみだが出てきた。

プライドが高いわたしは、サングラスをかけ、耳あてをつけ、表情をかくした。

私はその後、「落し物コーナー」と呼ばれる、同じようになかったものたちと出会うことになる。そう、このメンバーで

読み方につけプリント54

気になる店

わたしは今、気になっていることがある。

それは、この店だ。

ちよっとおながへったから、このレストランにふらっと入ったのであったが、何かようすがへんなのだ。

たのんだメニューがくるのが早い。

しかも、いように早いのだ。

わたしがたのんだのが、にくまんと、ラーメン。

そのにくまんが1分でわたしのところにきたのだ。

気のせいか、たのんだあと、おくのほうで、

「チーン」

という電子レンジの音が聞こえた気がした。

ラーメンも3分後にきた。

気のせいか、たのんだあと、おゆを

「ドボドボ」

とそそぐ音がした。

他のおきやくさんがからあげをたのんでいた。

おくの方から

「チーン」

という電子レンジの音が聞こえたかと思うと、すぐにからあげが出されていた。

まさか、この店、

読み方みにつけプリント55

気になる店2

わたしは今、気になっていることがある。

それが、この店だ。

ハンバーガーなどが食べられるファーストフード店なのであるが、どうもお店の人のふんいきがおかしいのだ。

私が、店員さんに、

「このポテトおいしいですね。」

と言ったら、

「はい、ありがとうございます。」

とえがおでへんじをしてきた。

そこまではいいのであるが、友達のいしい君に、

「お、いしい君、ポテトどう？」

と聞いたのに、店員さんがあわててよってきて、

「はい、ありがとうございます。」

と言ってくるのである。さらにいしい君が店員さんに、

「おい！しいたけ入ってないぞ！このきのこバーガー！」

ともんくを言ったのに、店員さんは

「はい、ありがとうございます。」

と言うのである、まさか、この店員さん

読み方につけプリント56

気になる店3

わたしは今、気になっていることがある。

それが、この店だ。

見た目はレストランなのであるが、何かがおかしい。それに気づいたのは、メニューをたのんだ後だった。

「じゃあ、まずはアイスクリームください。」

そう言うと、

「はい、かしこまりました。」

と言って、店員さんはおくへいき、1分もしないうちにもどってきた。

「はい、アイスクリームです。」

と言って、テーブルに、ぎゅうにゅうと、さとうをドンとおいていく。(ええ・・・) と思いながらも、

「じゃあ、チキンカレーをください。」

と言うと、店員さんはすばやくおくへいき、すぐにもどってきた。

「はい、カレーライスです。」

と言って、テーブルに、じゃがいも、にんじん、たまねぎ、カレーこ、にわとりをボンとおいて、さっていった。

まさかこの店、

を出してくる店なのか。

すべてをりかいしたわたしは、

「じゃあ、おすしをください。」

というと、出てきたのは、

読み方につけプリント57

わらい声

バナナの皮ふみ

ころんだら

クラスみんなが

はははははは

まじよがみていた

そのようす

ぶきみな声で

ひひひひひひ

わらっちゃだめよと

となりの子

しずかな声で

ふふふふふふ

みんなにわらわれ

てれるぼく

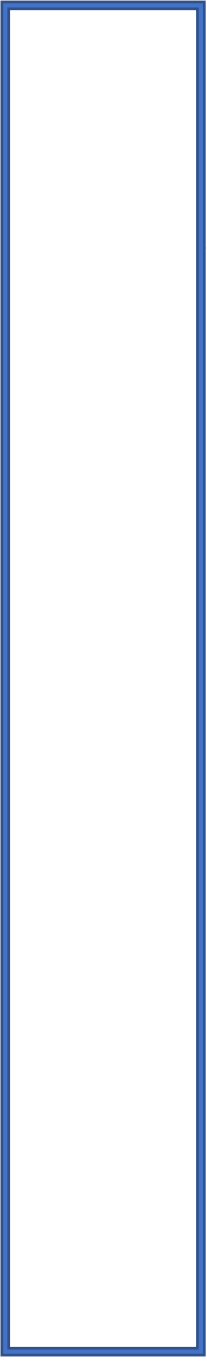
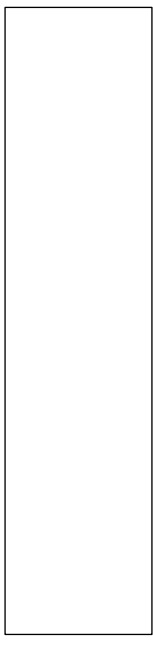
頭かきかき

へへへへへへ

うしろでみていた

親たちが

口をかくして



読み方みにつけプリント58

わらい声 2

とのさまふんぱつ

森の中、

バナナをもって

カカカカカ

さるたちあつまり

あばれだし

くれよくれよと

キキキキキ

おちたバナナに

きづいたねこ

ずるいえがおで

ククククク

食べれぬきつねが

ひねくれて

そっぽをむいて

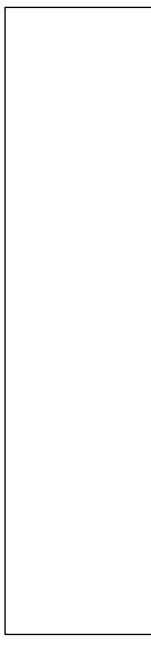
ケケケケケ

食べかすバナナに

が

われよわれよと

ココココココ



最強のアンパンマン

ぼくは、アンパンマン。

バイキンマンとは長いつきあいだ。

いつも、たいてい顔がぬれて力が出なくなったり、かばお君に顔を食べてもらって、力がでなくなつて、ピンチになつてしまう。

ぼくはヒーローだ。地球の平和を守らなければならない。

もう、こんなあぶないたたかいはしてはいけない。

かくじつに、バイキンマンに勝たなくてはいけないのだ。

そこで、ぼくは、おなかをすかせたかばお君に、

これで、かばお君はおなかをすかせなくてすむし、顔もうしなわない。

次に、ぬれてしまう顔についてだ。

ぼくは、防水のリュックサックに新しい顔を2つ入れることにした。さらに、顔にもスキーで使う防水スプレーをふりかけた。

さらに、ねんにはねんを。

ぼくは、バイキンマンがあらわれて、わるさをしたしゅんかんに、アンパンチをすることにした。先手ひっしようだ。

けっか、テレビの放送はまいかい、3分でバイキンマンが「バイバイキーン」と遠くへとんで終わるようになった。

ここで、一つ大問題がおきた。テレビを見てくれる人が、

読み方みにつけプリント60

最強のバイキンマン

おれはバイキンマン。

最近、アンパンマンが強すぎる。

防水のリュックサツクの中に顔のよびを2つも入れているし、顔には防水スプレーをかけている。

さらに、アンパンマンの顔を食べてくれるかばおに、おにぎりまであげだした。これでは勝ち目はない。

そうか、ふつうにたたかっではいけないのだ。

アンパンマンをたおすには・・・はっ！そうか。

アンパンマンがひつようなない、平和なせかいにすればいいのだ。そこで、おれは、このまちのへいわをアンパンマンより先を守ることにした。

おなかをすかせているかばおにアンパンマンよりさきにおにぎりをあげ、まちじゅうにお花をうえたり、

こうして、おれはアンパンマンより親切で、アンパンマンよりたくさんの人を助けるバイキンマンになった。まちじゅうが、

「あはははは。うふふふ。」

と笑い声でつつまれ、あらそいは0になった。

だが、問題がおきた。おれたちの様子をテレビでみていたしちようしゃの人が、

わたしはアンパンマンのファンだった。

バイキンマンがわるさをして、それをアンパンマンがやつつける。あいとゆうきにみちあふれた話にいつもかんどうしていた。

しかし、さいきんのアンパンマンは一体どうなっているのだ。

アンパンマンがテレビかいし1分くらいで、バイキンマンをたおしてしまう話が続いたかと思ったら、今度はバイキンマンが「うふふふ。」とお花をうえたり、まいごを助けたりして、さいごには10分くらい、ずっとお花畑のえいぞうがながれるだけのものになってしまっているではないか。

これは面白くない、私はテレビ局にももうすことにした。

「今のないようでは、ものたりない！もっとはげしくしないと、だれもみなくなってしまうですよ！」

そう電話でつたえると、テレビ局の人ははんせいしたようだ。

「わかりました。もっとはげしく、はげしくしてみせます。」

あれ、何かいやなよかんがする。

その日、テレビをつけると、タイトルがかわっていた。

「アイアンマン」

あれ、何かいやなよかんがする。

出てきたのは、顔が鉄でできたメタリックなアンパンマン。

バイキンマンは、バイキン肉マンと名前がかわり、筋肉むきむきだ。アンパンマンの手からはビームが出るし、それはそれははげしいたたかいがはじまった。見終わった後、わたしはためいきまじりに、こう言った

ぎやくせつ物語①

おれはせいぎのヒーローぎやくせつマン！

わるものをたおすために、今日もたくさんごはんを食べてきたぜ。

しかし！食べすぎて

でも、おれは、菓をのんで元気になったのさ。

元気になったところに、わるものがあらわれた。

大きな魚から人間の手足が生えている。まるで魚人間。

なんだ、弱そうだ。おれのてきではない。

おれのパンチ1発でやつつけれそうだぜ。

「ヒーローパンチ！」

おれのパンチは魚人間に命中した。

しかし！

さらに、魚人間は口から水をはきだしてきた。

なんだ、ただの水ではないか、こんなものくらってもだいじょうぶ、だいじょうぶ。

しかし！

おれは、一気にピンチになってしまった。

ぎやくせつ物語②

「すごくこわいお化けやしき」

とかかれたアトラクションがあった。

だが！このおばけやしき

まず、中に入ったら暗いものだと思っていた。

しかし！

さらに、おばけ役の人がぜんぜんやる気がないのだ。中に入ったら、ふつうにおべんとうを食べてきゅうけいしているではないか。ひどいと思ったので、近づいて

「ちよつと、ちゃんとおどかしてよね。」

ともんくを言ったら、

「あーはいはい、わかりましたーいきますよー3・2・1、うらめしやあー」

と言いながら、おべんとう箱に入っていたかわいいタコさんウィンナーをつまようじでさして、私に見せてきた。何がうれめしやなんだ。もう、まったくこわくない。

しかし！わたしは、さいごにお金をはらうときにこわい思いをすることになる。

なんと、

読み方みにつけプリント64

ぎやくせつ物語③ うれないやおや

おれはやおやの小西。

やおやっていうのは、やさいやくだものを売っている店だ。

さいきんのなやみは、やさいたちが全く売れなくなってきていることだ。このままでは、お店がつぶれてしまう。

そこで、おれはやさいにくふうをすることで売れるようにころみた。それも、とびっきりのくふうをだ。

まず、キャベツにえんぴつをブスツとさしてみた。

そして、

「このキャベツ、なんと字が書けるよ！」とはりがみをする。

これで、大人はともかく子どもがほしがるにちがいない。

しかし、

つぎに、ブロッコリーにLED ライトをつけて、光るようにして、

「メリーブロッコリー」とクリスマスに光りかがやくブロッコリーが食べれるにしてみた。

しかし、

さいごは、バナナに、

しかし、これもまったく売れなかった。

緑色のボディー、シャキシャキププリのはごたえ。
人間の子どもはどうしておれをきらいなのだろうか。
あじ？しょつかん？見た目？スーパーに行ったって、やきにく
したって、おれはいつだって大人気ではないか。

なのに、どうして

おれは、理由をしりたくて、思い切って0さいの赤ちゃんに聞
いてみることにした。

「なあ、なぜ、おれをきらうんだ？」

しかし、返ってきた答えは

だめだ、なんて言っているんだ。

0さいでは、だめか。

9さいくらいの子にしよう。

おれは、9さいくらいの子どもに聞いてみた。

「なあ、なぜ、おれをきらうんだ？」

しかし、男の子は

と答え、おれはけつきよく、なぜきらわれているかがわからな
かった。

「のりすけ！外はさむいんだから、長そでを着ていきなさい。」
お母さんが、うるさく言ってくる。

ぼくは、ぼくのことくらい、自分で決めたい。

だから、ぼくは

を着て外へ出た。

しかし、思っていたよりも外は

ぼくは、あわてて家の中へもどった。

お母さんが勝ちほこった顔をしてこう言った。

「ほらみろ、のりすけ！お母さんの言った通りでしょ。」

くやしくて、ぼくは、ゆかに落ちていたお母さんのおいてくれた長そでを、お母さんになげつけた。

しかし、

ぼくは、くやしくて外へとびだした。

でも、やっぱり

ぼくは、トボトボと家の中へもどった。

お母さんは、ぼくのなげた長そでを、たたんでげんかんにおいてくれていた。

てぶくろをそえて。

チクチクする長そでを、けっきよくぼくは着ていった。

いつもより、少しだけ、あたたかかった。

読み方につけプリント67

ぎやくせつ物語⑥ 大きなはんこう

「のりすけ、いいかげんおきなさい。今、何時だと思っているの？」

おれは、ぜったいにおきない。

大人はいつもめいれいする。もう、うんざりだ。

だから、お母さんの言うことのはんたいをすることにきめたのだ。下からはトーストがやけた、いいにおいがする。

でも、

「じゃあいいわ、のりすけ！おきなくていいわ。そのままねてなさい！」

待ってました！その言葉！おれは、はんこうするのだ。

「じゃあおきる！」

キッチンに行くと、もうみんな食べていた。

よし、やっと食べれる。

しかし、お母さんのよけいな一言が。

この一言によって、おれは、おいしそうなトーストが食べれなくなってしまうたではないか。

「た、食べない！」

でも、お母さんの次の一言でおれはすぐわれたのだ。

1分物語

「1分で終わらせてくれ？」

「いったい、どういうつもりなんだ。このテレビきよくは、

おれは、今までたくさんのおアニメをせいさくしてきた。

アニメはたいてい、シーエムを入れて、歌を入れて、合計30分で放送することになっている。

年末はたしかにいそがしい。色々な番組を入れたい気持ちもわかる。しかし、アニメはどうでもいいからって、歌、シーエムふくめて1分で終わらせてくれって・・・

でも、おれはプロだ。何とか、1分で終わらせてやるぜ！

最初のアニメは・・・めいたんてい、コナーンだな。

（その日の夜に流れた、アニメ）

「♪歌へはんにんは〜ご・と・う♪」（ここまで2秒）

ある日、吉田のメガネがぬすまれた。その場にいたのは、吉田、ごとう、さとうの3人であった。（ここまで10秒）

たまたま、近くを通ったコナーン、まずいばりを3人にうって、全員ねむらせる。（ここまで20秒）

たおれた、ごとうのおしりで「パリーン」とめがねのわれる音がした。ここでシーエム

「シーエム・メガネのプリンス」（ここまで40秒）

目がさめるごとう、コナーンがちかつき、

（ここまで60秒）

1分物語②

「1分で終わらせてくれ」

またか、また、番組を1分でおわらせてほしいというようぼうがきた。いったいこのテレビ局はテレビをなんだと思っているんだ。前回のめいたんていコナーン。ギリギリ1分で放送できたが、しちようしゃから、「歌でいきなりはんにんを言うなんてありえない。」ともんくがきた。わたしからすれば、1分でおわらせるほうがありえないが。

まあ、わたしもプロだ、やりきつてやろうではないか。

今回のアニメは、「ブリキユア」ヒロイン達が変身して、あくをたおしていく話だ。一番の問題は、変身シーンがとても長いことだ。ここをクリアしなくては・・・は！そうか！

(じっさいに流れたアニメ)

「歌..♪こんかいもーか・ち・ます！」(ここまで2秒)

ヒロイン「わるものよ！わるもの！」

わるもの「がおー」(ここまで10秒)

ここでシーエム

「♪..は、は、はますし！ぶ・ぶ・ぶりがうまい！」(20秒)

ヒロイン「きゃー！こわい！わるものよ！みんな変身よ変身！」

わるもの「そんなの変身じゃないだろうー！あ、まちがえて、足

元のばくだんのスイッチおしてしまったー！」

ボカーン

ヒロイン「せいぎは、かつ！」(ここまで60秒)

1分物語③

「1分で終わらせてくれ」

まただ。これで3回目だ。一体このテレビ局はどうなっているんだ。しかも、今回はアニメではないようだ。

なんと、料理番組をまかされた。しかもオープニング曲とシーエムをふくめて1分で終わらせてくれとのこと。これでは、カップラーメンも作れないではないか。

もう、どうなっても知らないぞ。そんな投げやりな気持ちで番組を作った。

（じっさいに放送された番組）

「オープニング曲..おいしいものを食べたけりゃ〜レストランへ行けばいい〜♪」

ス「今日は、ハンバーグを作っていきます。先生、よろしくおねがいします。おや？先生、それはなんですか？」

先「はい、これは、さっき作ったハンバーグです。」

ス「ここで、いったんシーエムです。」

CM「コンビニサラダ〜♪とってもお・い・し・い〜」

ス「先生、サラダはどうしましょうか？」

先「はい、サラダは

ス「なるほど、それならば作らなくてもいいし、楽ですね。」
先「そうなんです。あ、ハンバーグちよつとさめちゃったから、電子レンジであたためましょう。」

ス「あ、時間です。みなさん、さよーならー」 チーン♪

読み方につけプリント71

1分物語ファイナル

「今回はたつぷりと時間をつかっていいぞ。」

プロデューサーの言葉に耳をうたがった。なんと、今回は1分ではないということなのだ。

「それは、うれしい話です。で、今回はどれくらい時間をくれるのでしょうか。」

「ああ、今回はめいたんていコナーンに、24時間、時間をかけていいことになったんだ。しかも歌とシーエムなしだ!」

「ええ・・・ノーカットですか・・・そんなに長いアニメは作れないし・・・あと、いつまで作ればいいのですか?」

「明日だ!」

だ、だめだ・・・このテレビ局はめちゃくちゃだ。もう、知らない!

(じっさいに放送されたテレビ)

おきなわ、さとうきびとうなん事件。

まずは、コナーンたちがおきなわへ行くまでが放送される。電車のシーン3時間、飛行機のシーン4時間。シーンとすましかえるテレビ画面。飛行場につくとおきやくのさとうきびがぬすまれるじけんがはっせいする。

コナーン、いきなりごろうをねむらせる。

こ「う・・・」

この後、ごろうがねむっているシーンが7時間放送される。シーンとすましかえるテレビ画面。

ごろうがおきると、コナンは飛行場にいる五千人一人ひとりに聞いていく。「さとうきびぬすみましたか?」と、7時間後、

読み方につけプリント72

わかってくれよ、サンタクロース

あるところに、人はとってもいいのですが、ちよっぴりあわてんぼうのサンタクロースがいました。

「スイッチがほしい。」

という子どもからの手紙をみて、

「スイッチか、たやすいことだ。」

とじゅんびをはじめました。

クリスマスのばん、その子どもの家からなきごえがします。

「サンタさんのほかあ。このスイッチじゃないよう。」

そう、その子にとどいたのは、ポチッとおす電気をつけるためのスイッチが1つ小さくほうそうされたものでした。

また、べつの子からの手紙には、

「ブロックがほしいです。」

と書かれていて、

「ブロックか、かわったものをほしがるなあ。」

とじゅんびをはじめました。

クリスマスのばん、その子が家に入ろうとすると、サンタクロースが家のげんかんの前に立っています。

「あ、サンタさんだ。」

子どもが近づくと、サンタさんは両手をよこに広げて、ラグビー選手のようにこしをおとしてかたまります。

「さ、サンタさん？ぼく、家に入りたいんだけど・・・。」

そう、サンタは子どもが家に入ることを

読み方につけプリント73

天使学校をそつぎようしたい

ある都会のど真ん中に、一人の天使がいた。かのじよの名前はミゼル。天使学校6年生である。

今年で天使学校をそつぎようするミゼルであったが、そつぎようをするためにはじょうけんがあった。

それは、他の人間を10人、幸せにすることであった。しかも、自分がやったとバレないように。

とても心のやさしいミゼルであったが、かのじよはいつも、あと少しのところでした。ぱいしてしまおう、ちようおつちよこちよいさんなのである。

今、都会の人ごみの中でまいごになってしまった子どもと、その子をさがす母親を見つけたミゼル。手をひっぱっていけばいいのであるが、それでは正体がばれてしまおう。

そこで、ミゼルが考えたのが、花火大会だ。

まほうで花火を1000発打ち上げて、母親と子どもを同じ場所にゆうどうする。これで、二人は出会えるはずだ。

1000発では少し足りないと考え、ミゼルは10000発の花火を打ち上げた。

しかし、それによって、子どもと母親はよけいに会えなくなってしまったのだ。なぜなら、

読み方につけプリント74

天使学校をそつぎようしたい2

ちようおつちよこちよい天使のミゼル。

まいごになった親子を合わせようと、花火を一万発打ち上げ、たくさんの人を集めて、よけいにまいごをふやしてしまった。

そんな中、あらたなじけんが発生する。

おまつりで、ふわふわうかぶ風船を手にした子どもが、あまやって、風船を手放してしまい、風船が高い木のえだにひっかかってしまったのである。さて、どうするミゼル。

ミゼルは、弓矢をかまえていた。

矢先は風船の方に向いているようにも思える。

まさか、ミゼルは

そんなことをしたら、子どもはかなしむにちがいない。

しかし、ミゼルがねらっていたのは、風船ではなかった。

風船がひっかかっている木のえだをねらっていたのだ。

矢を放つと、みごとにえだに命中。

「パキーン！」

枝がおれ、風船がはなれた。ナイスミゼル！

しかし、ミゼルは大切なことをわすれていた。

えだからはなれた風船は、

読み方につけプリント75

天使学校をそつぎようしたい3

ちようおつちよこちよいのミゼルはしっぱいばかりで人を幸せにできないでいた。そつぎようするためには10人幸せにしなくてはならない。

もう、時間もあまりない。

ミゼルはあせっていた。

こうなったら、まとめて10人幸せにできる、何かいい方法はな
いか……。

そんなミゼルの目にとびこんできたのは、遊園地のジェットコースターだ。たくさんの人が

「キヤー！」

というひめいをあげている。

なんておいうおそろしい乗り物だ。

ぜんりょうな市民をきょうふにおとしいれるとは……

助けなくては！

ミゼルはジェットコースターにまほうをかけた。

ジェットコースターは、急にゆっくりになった。

それもとてつもなく、カメが歩くくらいの速さになったのだ。

「キヤー！」

というひめいはピタリととまった。

やった、私はたくさんの人をしあわせに……

しかし、ジェットコースターに乗っていた人はだれ一人よろこ
んではいなかった。ジェットコースターからおりるなり、

ともんくを言って、帰っていった。

読み方につけプリント76

あくま学校をそつぎようしたい1

ある家の中にあくまがひそんでいた。かれの名前はバビル。あくまがつこう6年生。今年でそつぎようをむかえるバビルであるが、そつぎようするためには、じょうけんがあった。

それは10人の人間にいたずらをして、こまらせることである。しかし、ちよーおつちよこちよいのバビルはいつもしつぱいばかり。あとちよつとの所で人間を幸せにしまうのだ。

今、人間の母親が、台所で料理をしている。

なべに火をかけ、鼻歌を歌いながら、何かを取りに2階へあがっていった。

これはチャンス！バビルはコンロのつまみをいじって、火を消してしまった。これで今夜はつめたいカレーを食べることになるにちがいない。バビルはニヤニヤした。

20分後、母親があわてて2かいから、おりてきた。

「あーなべ、火にかけっぱなしだった！もういや！ぜったいにこげてるうー！」

ところが、母親はなべをみるなりホツとする。

「あら、やだ、火

これは、くやしいバビル。

こうなったら、カレーを台なしにしてやる！

バビルは母親のすきについて、れいぞうこにあった、

をカレーの中に入れた。

しかし、その後、味見をした母親は、

「あら、今日のカレー、いつもよりおいしいわ！」とき。

読み方につけプリント77

あくま学校をそつぎようしたい2

あくま学校6年生のバビルは、10人にいたずらをしなくてはならない。しかし、いつもけっかてきに、いいことをしてしまうバビル。前回もカレーを台なしにしようと、れいぞうこの中に入ったりとハチミツをなべに入れたところ、人間をよろこばせてしまった。

今度こそと、バビルは遊園地に行くことにした。

ここなら人がたくさんいて、一気にいたずらできるにちがいない。

そう思っていると、ジェットコースターにのっている人のすがたが見えた。

あのジェットコースターみようにゆっくりだな。

乗っている人は・・・ほうほう、すごく、かなしい顔をしている。きつと高くてこわいのだろう。

そうだ、もっともつと、こわがらせてやろう。

これで、おれは学校をそつぎようできるぞ。

バビルはノロノロのジェットコースターにまほうをかけた。

ものすごい速さになったジェットコースター、

「きゃー！」

乗っている人のひめいが聞こえる。

バビルはうんうんとうなずいて、まほうをかけ続けた。

ジェットコースターがゴールし、乗客がおりてきた。

さぞかし、かなしい顔をしていると思ったら、まさかの全員すごいえがおでおりてくるではないか。

お客さんはおりるなり、

読み方につけプリント78

あくま学校をそつぎようしたい3

いたずらを何回しても、いつもしっぱいばかりするバビル。

このままではそつぎようできないかもしれない。

バビルはあせっていた。

今度こそとバビルは、男の子の家に来ていた。

今、男の子はねている。

バビルは、ねている子ならばまちがえなくいたずらできると考えたのだ。

まくら元には目ざまし時計が置いてある。

よし、この目ざまし時計を大音量でならして、ビビらせてやるか。えい！・・・ふふふ、これで2時間後、この子はびっくりするだろうな。

にやけていたバビルはあることに気づく。

自分と男の子がいにも、この部屋にだれかいるのだ。

それは、自分と同じ年くらいのせなかに羽の生えた女の子であった。女の子はバビルにむかって、

「それじゃあ、かわいそうよ！」

と言うなり、目ざまし時計にむかって、

「えい！ならなくなあれ！」

とまほうをかけた。バビルは

「おいおい、まてよ！それじゃあ、

と言うと、女の子は、

「何よ、あなたこそ、そんなに大きな音を出したら、

学校をそつぎようしたい

しっぱいばかりする、てんしとあくまのミゼルとバビル。

二人はついに出会った。今までのことを話した二人、

「つまり、ミゼル、お前は10人の人を幸せにしなければそつぎようできないんだな。でも、いつも人をふこうにしよう。」

「そうよ、バビルは10人の人をふこうにしなければいけないけど、いつも人を幸せにしてしまうのね・・・あれ、もしかして！」

二人は顔を合わせた。

「二人でやれば、うまくいくかも！」

さあ、そんな二人の目の前に、夏のあつさにうへえとつらそうな男の人があらわれた。

「さあ、ミゼル、あの人がかまっているぞ、お前なら、何をする？」

「そうね、わたしなら、きよだいなせんぷうきですずしくしてあげるわ。」

「なるほど、では、まほうで、えい！」

あつそうな男の人の目の前にちようきよだいなせんぷうきがあるわれ、羽は高速回転。ものすごい風がふいて、男の人は空高くふつとんでいく。ガッツポーズのバビル。すかさずミゼルが、

「あの人、たいへんそうよ、バビル、あなたなら、どうする？」

「そうだな、おれなら、

すると、男の人は、「助かったー！」とホツとする。

こうして、こうごに人にいたずらしては助けることをくりかえし、ミゼルとバビルは、学校の校長先生にすべてバレて、たくさんたくさんおこられたとき。ちゃんちゃん。

読み方につけプリント80

トレンディー博士の発明品

ひさしぶりじゃ。トレンディーじゃ。

今まで何していたかって？そりゃいそがしかったぞい。朝起きて、ごはんたべて、まんがよんで、テレビ見て、ごはんたべて、まんがよんで・・・ふう、いそがしかったぞい。

そんな生活の中、ついにべんりな商品を思いついたのじゃ！それが、これ、「ラジコンれいぞうこ」じゃ。

マンガ読んでいる時に思ったのじゃ、（ジュースとりにいくのめんどくさいのー）って。このれいぞうこがあれば安心じゃ。みてみる、下にタイヤがついておる。あとはこのコントローラでほれ、わしのところに走り出したぞい。ん？コンセントがぬけたじゃと？何、きにするな、後でさせばいいのじゃよ。

さらにじゃ、この赤いボタンをおせば、

「ボン！」

れいぞうこのドアがあくのじゃ。閉めるときは手でしめるのじゃぞ。さらにさらに、この黄色のボタンをおすと、

「あけたらしめよう、れいぞうこ。」

ってれいぞうこが言うんじゃ。これで、あけっぱなしもふせげる。

そして、さいごにこの緑のボタンじゃ、これをおすと

こんなに、すごいれいぞうこなのにな、ふしぎとだれも買わないじゃ。一体、どうしてだろうかの？

読み方につけプリント81

トレンディーはかせの発明品

やあ！しつこくトレンディーじゃ。

今、りくじょうのマラソンのせかいでは、「あつぞこブーツ」とよばれているくつが大人気なのは知っているかの？

いつもより、早いタイムで走ることができるそうなのじゃ。

くつのそこをあつくすれば、いいなんて、だれもが思わなかったじゃろう。

そして、わしも思いついたのじゃ。

あつくすれば、あつくするだけ速くなるのではないかと。

そこで開発したのが、このくつじゃ。

「ちようちようあつぞこブーツ2号」じゃ。

なあに、そざいはふつうのくつじゃ。

しかし、このくつ、その長さが100メートルあるのじゃ。つまり、このくつをはいて、1歩をあるけば、そうなのじゃ、

100メートルちかくすすむことができるってわけじゃ。

1キロメートルなんて、10歩すすめばゴールじゃ。

これで、マラソン大会はゆうしようまちがえなしじゃ。

しかし、思わぬことがおきたのじゃ。

なんとくつをはいたせんしゅが、

このくつは、使えないとあつとう間にリサイクルにだされてしまった。

スイッチ

ある日、地球上の全ての場所で同じ声が聞こえた。

「お前たちは生まれかわったら、何になりたい。」

人間たちはふしぎがりながらも、

「おれは、鳥になりたい。」

「わたしは、ねこになりたい。」

「おれはなまけものになってのんびりしたいなあ。」

と次々に頭にうかべたり、声に出したりして、その言葉に返事をした。2時間くらいすると、空からふたたび声が聞こえる。

「お前たち、全員の声は聞こえた。それではいざ、

チェーンジ！」

すると、空が光だし、地球上はいっしゅん、真っ白なせかいに
つつまれた。

気がつくと、人間たちは、それぞれが思いうかべた動物や生き
物になっていた。

鳥になった人間、ねこになった人間。

ゆめだとも思っているのだろうか、動物になった人間たちは、
空を思い切りとんだり、地面を思い切りかけまわってしばらくの
間楽しんだ。

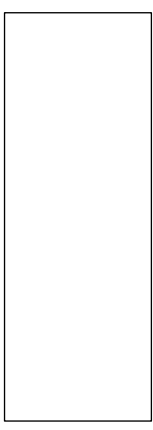
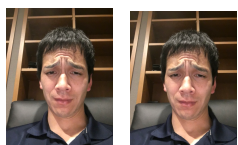
しかし、数時間もすればこれがゆめではないということにも気
づいた。動物になったままあせる人間たち。

そんな動物たちをニヤニヤしながらとりかこんだ生き物がいた。
人間だ。すがた形はかんぜんに人間だ。だが、何か様子がおか
しい。動物になった人間たちは気づく。

（まさか、この見た目が人間の生き物は・・・

読み方みにつけプリント83

どちらがたけしでしょう



ここに2まいの写真があります。一つはたけしで、一つはロボたけしです。見た目はほとんど同じです。

では、どうしたら、たけしとロボたけしを見分けることができるでしょうか。

二人を回してみることにしました。

たけしを回してみると、30秒くらいで「気持ち悪い・・・」と顔色が悪くなります。

しかし、ロボたけしはいくら回しても表じようがかわりません。ロボですから。

このように、回すことでちがいを見つけることができます。

また、こんな方法でちがいを見つけすることもできます。

それは、

たけしは、

しかし、ロボたけしは、

このようにして、ちがいを見つけることができます。

ちこくだちこくゝ。学校にちこくしてしまいそう。
どうして、お母さんおこしてくれなかつんだろう。

たかこは、イライラしながら家をとびだした。

パジャマのまま。ランドセルもせおわずに。

そのことに気づき、あわてて家の中へもどり、したくをしてふたたびとびだす。もう、間に合わないかもしれない。

こうなったら、いつもは通らない、近道を通っていくしかない。けど、この近道には一つ、問題がある。

犬のデンジャラスだ。いちおうかわれている犬なのであるが、体はたかこの二倍くらいあり、顔がとってもこわい。きんくもムキムキだ。この犬のそばを通っていかなければ近道は通れない。

いつもなら、ぜったいに通らない道であるが、今日はおくれるわけにはいかない。たかこのたんになの先生はデンジャラスよりこわいからである。

全速力で走り、デンジャラスの前まできた。

デンジャラスは、いびきをかいてねている。チャンスだ。

「はあ、はあ、通るわよ、デンジャラス。」

たかこは走り出した。いける！これなら間に合う！
しかし、

今思うと、近道を通らなかつたら、間に合っていたのかもしれない。

ことわざ物語〜とうだいもと暗し先生〜

「おこらないから、知っている人がいたら言ってくれ。クラスの吉田さんの消しゴムがなくなったそうだ。吉田さんの消しゴムを持っている人は正直に手をあげてほしい。」

さとう先生はしずかであるが、あきらかにおこっている声色で話し出した。クラスの子達は下を向いてわらいをこらえる。

さとう先生のおでこに、「吉田」と名前が書かれた消しゴムがペトンと、ひつついているのだ。

しばらくだまっていると、さらにさとう先生はしずかにおこった声で語り出す。

「消しゴムは知らないんだな、まったくどこへ行ったのやら。では、次は今田さんのじょうぎもなくなったそうだ、消しゴムよりは大きいからすぐにわかるだろう、だれか知らないか。」

クラスの子達は下を向いてわらいをこらえる。

さとう先生のおでこに、「今田」と名前が書かれたじょうぎがペトンとくつついているのだ。どれだけくつついているのだ。

先生は続ける、

「はあ、じょうぎも知らないのか。わかった。じゃあ、さいごに、先生のリコーダーもどこかへいってしまったんだ、知らないか？」
クラスの子達はついになまんでできなくなってわらいだし、こう言った。

「先生、

ことわざ物語／石橋をたたいてわたる／

ぼくは今、お化け屋しきにいる。

ぼくの目標はただ一つ。ぜったいにこわい思いをしないでこの屋しきから出ることだ。

お化け屋しきがこわいのは、こわがらせる人がいるから、こわいしかけがあるから、この2つだけだ。この2つをかいひできおれば、こわい思いをしなくてすむ。ぼくは、かんぺきな作せんを考えてきた。

入り口から入るとぼくはまず、

「ぎゃーおばけー！」

と、何も出てきていないのにさけび続けることにした。これでおどかす人は（この人はこわがっているから、もう出ていかなくていいだろう）と思うにちがいない。

さらに、リュックにつめこんできた。かいちゅう電とう20本をつけて、そこら中になげる。通路が明るくなり、こわいしかけも全部見える。

あとはかんたんだ、しかけが発動する前に、全速力でゴールまでダッシュ。ふふふ。ぼくが通りすぎてから、

「がおー」

ってお化けが後ろからとびだしている音が聞こえる。だれもぼくをおどかすことはできないのさ。

しかし、ゴールをしてからこのさくせんの弱点に気づく。

ことわざ物語く四面楚歌（しめんそか）く

やってしまった。

ぼくはわすれていた。今日が漢字テストであることを。それも学年最後の100問テストであることを。

三月二十一日だと思っていたテストが二月二十一日だったのだ。周りに聞いてみた、

「ねえ、テスト勉強やってきた？」

すると、全員が

「当たり前じゃん、え？お前、やってないの？何してたの？」

と聞き返された。くやしくて、

「はあ、やってきたに決まってるじゃん！まちがえなく90点はとれるぜ。」

とうそをついてしまった。

テストが始まった。こうなったら、やけど、てきとうに漢字を作ってきせきの神様にほほえんでもらうまでだ。

手に力を入れて書く

「ボキッ」

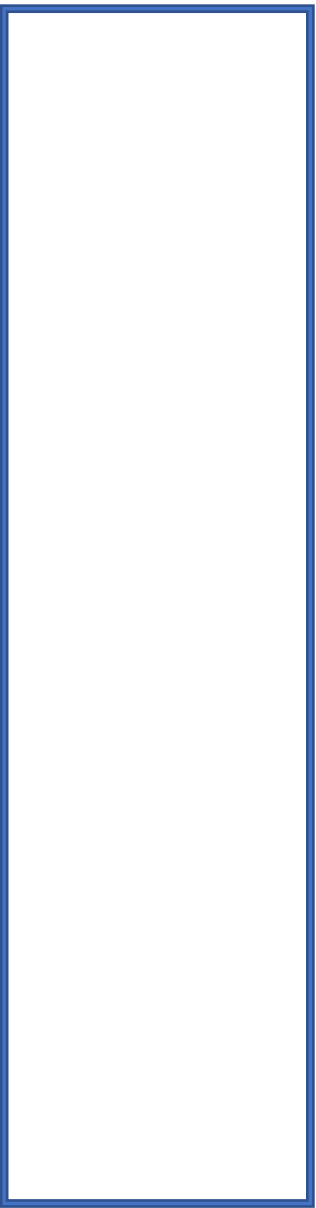
えんぴつがおれる。

あわてて、おれて小さくなったえんぴつを持って書く。

「ビリッ」

テストがやぶれる。

この後、さらに、



せんとうのおじさん

ためいきをついている人がいた。

せんとうのおじさんだ。理由を聞いてみた。

「さいきん、人がまったくこないんだ。おふろなんてみんなもう入りにこないのかな。」

おじさんは、そうとうこまった顔をしている。

「そんなこと、ありませんぞい。」

おじさんをなぐさめながら、せんとうの中に入り、見わたす。

ちよっと広めのよくそうがあるくらいで、あとは何もくふうのない、ふつうのおふろだった。

わしは、そのおじさんにアイデアをさずけることにした。

アイデア1、せんとうの水を全部オレンジジュースにしてしま
うさくせん。

アイデア2、よくそうの水を全部こおらせて、スケートリンク
にしてしまいうさくせん。

アイデア3、おふろをなくして、わしの発明品のてんらん会場
にする作戦。

アイデア4、

1ヶ月後、そのせんとうはわしのアイデア
していた。そのけっか、

をさいよう

トレンディーはかせ、せんとうを始める

ハロー、トレンディーじゃ。なんだか縁があって、さいきん、せんとうを始めることにしたのじゃ。

わしは、あるおじさんからこのせんとうをまかされたのじゃが、このせんとうはどうもせまい。それにあまりにもふつうのおふろで人気がないのじゃ。

そこで、わしはこの問題をかいけつするためにアイデアを出したのじゃ。

まず、よくそうは広くできないから、思い切り深くほってみたのじゃ。その深さ10メートルじゃ。どこまでもぐれるぞい。次に、ふくじゃ。せんとうはふくをぬいだり、着たりするのがめんどろじゃ。なので、ふくを着たまま入れるようにしたのじゃ。ん？ぬれたふくはどうするかって？

それは、いったんぬいで、ドライヤーでかわかすしかないじゃろ。何を言っておるのじゃまったく。

さらに始めたのが、出前せんとうじゃ。

せんとうに行くのがめんどろならば、こっちから行くのじゃ。電話をくれたら、その人のところまで行って、せんとうのおゆを頭からかけてあげるのじゃ。どうじゃ、すごいじゃろ。

お、さっそくこのせんとうをりようしたお客様から電話がきたぞい。プルルル、「はい、トレンディーせんとうです。」

